

平成28年度 学校評価（総括評価表）

重点課題	重点目標	評価指標（活動計画）		評価			学校関係者評価 学校関係者の意見
		評価指標	評価指標による達成度	自己評価	総合評価		
ICT活用教育の 推進	<p>【中期目標】</p> <p>教員のICT活用指導力の向上を図り、児童生徒の学習活動を充実させる。 （2年間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての教員がICT活用指導力のスキルアップを図る。 ・全ての教員がICT機器を活用した学習活動に取り組む。 <p>【短期目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員一人一人がICT機器活用に関する具体的な支援方法や内容についての目標を持ち、研修や教材研究等に取り組む。 ・学校全体で、ICT活用実践事例を共有する。 	学校全体	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用指導力向上に向けた全体研修や希望研修を年間5回実施する。 ・ICT活用に関する情報収集および共有化を図り、児童生徒の学習活動に役立てる。 ・教員の「ICT活用に対する理解」と「ICT活用指導力」の向上について、肯定的な自己評価を80%以上得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5回以上実施する目標を達成することができた。 ・全職員がアクセス可能な「★H27-28年度 ICT活用事例」フォルダを作成、情報収集および共有化を図り、児童生徒の学習活動に役立てた。 ・「ICT活用に対する理解」および「ICT活用指導力」の向上について、肯定的な自己評価を80%以上得た。 	A	(評定)	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に関して、県内の特別支援学校で優れた実践をしている教員に実践を紹介してもらうなど県内の特別支援学校同士でいいものを共有してはどうか。 ・学習指導に関して、担任だけではなく学部、学校としてどう伸ばしていくかということを考え、指導の系統性、一貫性をうまく担保していけると高等部を卒業するまでに力が積み上がっていくのではないかな。 ・指導力の向上に関して、教員自らがちょっと時間のあるときにICT機器を使おうと思えるよう、自由な環境を用意しておく必要があるのではないかな。
		各学部	<ul style="list-style-type: none"> ・教員全員がパソコンやタブレットPCで基本的な操作やアプリケーションソフトの操作ができるようになる。 ・児童生徒一人一人に対する授業等で、ICT活用指導計画を立て、実施する。 ・年間2回以上、事例検討会やケース会で実践報告を行い、データを共有する。 	<p>【小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンやタブレットPCの基本操作やアプリケーションソフトの操作では、93%の教員が「できる」「ほぼできる」と回答した。 ・全員の教員が「個別の指導計画」にICT活用について計画を立て、実践した。 ・学部全体で行うケース会議を2回実施し、ICT活用実践を報告して情報を共有した。 <p>【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員全員が基本操作やプレゼンテーションソフトなどの操作ができた。 ・生徒に合ったアプリケーションソフトを使って学習活動に生かすことができた。 ・年間2回以上、学部全体やグループにおけるケース会において、ICT活用状況を報告して情報を共有することができた。 <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員全員が基本操作やプレゼンテーションソフトなどの操作ができた。 ・生徒に合ったアプリケーションソフトを使って学習活動に生かすことができた。 ・年間2回以上、学部全体やグループにおけるケース会において、ICT活用状況を報告して情報を共有することができた。 	A	(所見)	
		学校全	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用指導力向上に向けた全体研修及び各学部の児童生徒の実態や、教員の活用状況に応じた希望研修を年間5回以上実施する。 	<p>活動計画の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修テーマに関する指導が可能な教員の協力を得て希望研修を3回、研究課や人権教育課の協力を得て教職員全体研修を2回実施することができた。 	A	<p>（所見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年間の取り組みを振り返ってICT活用教育を推進する課題がほぼ達成と評価できるのではないかな。 ・セキュリティのために利便性等の制約が深まる昨今、可能な限りICTを活用しようとする姿勢が伺えた。 ・児童生徒の重度重複の比重が大きい本校の実態によると考えられるが、タブレットPCのシンプルな操作体系のアプリケーションを用いる傾向が大きい。準ずる教育課程の生徒はノートパソコンを主に活用して、「学校紹介ビデオ」の制作や「とくしま特別支援学校技能検定」に合格するなどの実績を残すことができた。そして、合理的配慮 	

体	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き児童生徒のICT活用事例を収集し、データを共有するため事例をまとめる。 ・教員一人一人のICT活用指導力を把握するために、アンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期末に事例を収集及び活用しやすいように共通の様式を簡潔化と見出しにポイントを置いて見直した。その作業にあたっては、研究課の協力を仰ぐことができた。また、共有化を図るために各学部に分かれていた事例を全教職員が閲覧可能なアクセス権を持ったフォルダに移動した。 ・総務省及び文部科学省のサイトで公開されているコンテンツや各種端末におけるアクセシビリティ機能を設問に設定した「ICT活用に対する理解」に関する調査を1学期と2学期に実施した。「教員のICT活用指導力のチェックリスト」を用いて「ICT活用指導力」に関する調査を2学期に実施した。培ったICT活用能力を生かすために対象職員全員が「職員朝礼連絡事項」→「教育JoruriGWの回覧板」→「temp」→「◆_ICT活用教員調査」→「オンライン回答」の流れでアンケート回答できるように整備して実施した。 	<p>への一環としてプレゼンテーションソフトを用いた情報の視覚化を保障する場面が定着しつつある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用事例についても昨年度の個人単位での取り組み報告から、複数での取り組み報告が見られるようになって変化が見られてきたことから今後もじわじわと浸透していくと期待される。 	<p>扱える指導力。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学習活動を充実するため、アクセスが容易なハード面やソフト面の環境整備。
各学部	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンやタブレットPCの基本操作や児童生徒に応じた、アプリケーションソフトの利用についての研修を実施する。 ・各教員が児童生徒へのICT機器の活用計画を立て「個別の指導計画」に取り入れる。 ・各教員がケース会等で一事例以上の取り組みを発表し、事例集の様式にまとめる。 ・学期に1回、ホームページや学部だより等でICT活用の様子を保護者や地域に知らせる。 	<p>【小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体研修、希望研修を5回行った。学部としては、来年度の学会発表（ICT機器を活用した授業実践）に向けて、四国大学 前田准教授に、年3回、授業参観と指導助言をいただき、実践内容を深めることができた。また、11月に小学部教員が講師となって、「タブレットPCでできるネットワーク用ハードディスク」の基本操作について研修を実施した。ICTサポーターズからは、アプリの活用方法について研修会をしていただいた。また、keynoteの使い方の指導を受けたり、オリジナルアプリケーションソフトについて相談したり等、個々に研修することができた。 ・教員全員が、それぞれ担当する児童に対してICT機器活用について検討し、「個別の指導計画」に取り入れて実践した。 ・学部内のグループ研究でICT機器活用に取り組んでおり、その事例について事例集の様式で報告することができた。また、教員全員がICT機器を活用した実践を事例集にまとめた。 ・ホームページで運動会や学校祭などの行事や、毎月の学部集会等でICT機器を活用している様子を随時発信することができた。 <hr/> <p>【中・高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体研修、希望研修を年5回実施した。学部内 		

では、専門性の高い教員がパソコンやタブレットP
Cの基本操作やアプリケーションソフトの紹介及び
活用方法等について、個々に相談に応じて指導を
行う体制が整ってきている。

・生徒個々の実態に応じて「個別の指導計画」の
中に、ICT機器の活用計画を取り入れ、日々の授業
や校外学習を中心に防災学習、人権学習、進路学
習、学習発表会等の中でも積極的かつ有効に活用
することができた。スイッチをICT機器と接続して
の活用も定着してきており、障がいの状態や程度
に応じた有効な支援に繋げることができている。

・学部ケース会の中で、生徒一人一人のICTの活用
状況について共通理解を図り、授業の中でICTを活
用した教員が一事例以上の取り組みを事例集にま
とめて情報の共有を図ることができた。

・学期に1回以上、ホームページや学部だより等
で、学校や校外における生徒のICT活用の様子を保
護者や地域に発信することができた。